

【No. 1】日本の商業建築の歴史に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 町屋は生活共同体の町にある家々で、商いの場や仕事の場を兼ねた家をさす
2. 勧工場とは日本独特の百貨商品陳列所である
3. 銀座煉瓦街は、大正5年銀座大火の後、都市の不燃化を目指し煉瓦造りによってつくられた
4. 明治時代に入り、経済の発展と共に重厚な蔵造りも建てられた

答. 3

【No. 2】商業施設に求められる機能およびデザインに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. モジュールコーディネーションとは、モジュールを活用して寸法調整を行うことで、建物または店舗空間全般に秩序を持たせることをいう
2. 建築物や店舗の平面レイアウトでは、人と物、エネルギーの供給ルートなどの主要動線が、単純で短く、交錯しないようにすることが望ましい
3. チェーン展開店では、同一の店舗デザインを採用するケースが一般的だが、個々の機能は変えずに出店地域・地区と融合する意匠に替える場合もあり、これをコンセプトストアという
4. 商業施設では、来街・来店者の動線を最優先させる必要があり、バックヤード動線等については、客用動線を確定した後に設定しなければならない

答. 4

【No. 3】商業施設に求められる機能と設計上の留意点に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 車いす利用に関する設計上の配慮として、屋内のレベル差が75 cm程度の場合の勾配は1/12以下、段差が生じる場合は10 cm以内が適切である
2. 視覚障害者の白杖を使った歩行については、壁面からの突出物は下端で60 cm以下、奥行き10 cm以下にしなければならない
3. 店頭デザインには、扉やショーウィンドウでファサードを囲う閉鎖型と、生鮮品や日用品店で採用されているような店頭を覆わない開放型がある

4. 自転車の駐輪スペースを計画する場合、すれ違いや出し入れを考慮し、通路幅員は 3mを確保し、1 台あたりの駐輪幅は 60 cmを目安とする

答. 1

---

【No. 4】 建築基準法第 35 条の 2 の規定による内装の制限に関する次の記述のうち、建築基準法上、**誤っている**ものはどれか。

(ただし、各種検証法及び国土交通大臣の認定による安全性の確認は行わないものとする。)

1. 地階に設ける居室でバーの用途に供するものを有する特殊建築物は、その構造及び規模にかかわらず、内装の制限を受ける
2. 内装の制限を受ける調理室等火気使用室の壁及び天井の室内に面する部分の仕上げには、不燃材料以外は使用できない
3. 耐火建築物及び準耐火建築物以外の建築物で、物品販売業を営む店舗の用途に供する部分の床面積の合計が 100 m<sup>2</sup>のものは、内装の制限を受けない
4. 自動車修理工場の用途に供する特殊建築物は、その構造及び規模にかかわらず、内装の制限を受ける

答. 2

---

【No. 5】 建築構造に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 建築物に加わる荷重には、自重、積載、土圧、積雪、風、地震などがある
2. 十勝沖地震などの経験から、1981 年新耐震設計法ができ、現在に至っている
3. 平面、立面の形状は、単純かつ幾何学的に明快なものが望ましい
4. 地盤の液状化などに配慮する防止対策は、必ずしも必要はない

答. 4

---

【No. 6】 ガス設備に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 商業施設の売り場内で、ガス設備の使用が禁止されていることがある
2. 店舗では、ガス配管も給排水配管などと同様、景観的にも極力隠蔽配管とする
3. LPガスボンベ置場は、原則として屋外又は別棟とする
4. ガス器具の給排管は、ガス器具や排気筒回りの不燃化をはかり、可燃材との距離を15センチメートル以上とする

答. 2

---

【No. 7】 空気調和設備に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. ヒートポンプは、冷房のほか暖房もできるが暖房負荷の大きい寒冷地にはあまり適さない
2. 深夜電力の利用や熱源容量の低減を目的に、水や氷による夜間蓄熱での日中の熱利用など省エネルギー化が行われている
3. ダクト設備は一般に、低速ダクトは円形、高速は角型で、不燃材料を使用する
4. 定風量単一ダクト方式は、風量が一定であるので、十分な換気量を定常的に確保できる

答. 3

---

【No. 8】 搬送設備に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. 非常用エレベーターは高さ25m以上の建物に必要で、災害時に消防隊が救助に使用する
2. エレベーターには、ロープ式、油圧式、リニア式がある
3. エレベーターシャフト内には、他の設備の配管をしてはならない
4. ダムウエーターは荷物専用の搬送機である

答. 1

---

【No. 9】 各種設備に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. 通信設備は、建物内の情報伝達、またはこれを利用したコミュニケーションを行うための設備である
2. 排煙設備は、火災時に発生した煙を除去する設備で、各地の条例のみにより規定されている
3. POSシステムとは、販売時点情報管理のことである
4. 商業施設から排出されるゴミの量は、他の建築物に比べ非常に多い

答. 2

---

【No.10】 色彩計画に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. 空間を構成する色は、施設を印象づけるのに非常に効果的である
2. マンセル体系は、アメリカの美術教育者であるアルバート・マンセルによって作られた
3. 色彩は照明によって大きく見え方は変わらない
4. 色光の混色を加法混色、色料の混色を減法混色という

答. 3

---

【No.11】 LEDに関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. LEDの寿命は初期の50%の明るさになるまでの時間で設定されている
2. LEDは同じ明るさのミニクリプトン球より85%の電気代が節約できる
3. LEDの光は赤外線、紫外線をほとんど含まない
4. 演色性の高いLEDは標準色のものに比べると照度はダウンする

答. 1

---

【No.12】 環境制度に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. 大規模開発事業による環境への影響を事前調査することを環境アセスメントという
2. 室内の快適性や景観への配慮など、建物の品質を総合的に評価するシステムをWELLBEという
3. 米国グリーンビルディング協会が開発、運営を行っている建物と敷地利用の環境性能評価システムをLEEDという
4. 環境制度はイギリスの建築研究財団BREが開発したBREEMが始まりと言われている

答. 2

---

【No.13】 アメニティ計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. ダイバーシティとは、障害者をマイノリティにとらえるのではなく、人間の多様性の一つにとらえることを含む考え方である
2. 車いすが自転するためには150 cm×150 cm以上の広さが必要で、屋内のスロープは1/12以下にしなければならない
3. ユニバーサルデザインとは、文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障害・能力の如何を問わずに利用することができる施設・製品・情報の設計を言う
4. バリアフリーは、主に建物の段差などの障害を取り除くことを示し、広く障害者や高齢者などへの使いやすさを示すことをアクセシビリティと言う

答. 2

---

【No.14】 商業施設のコスト計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 大型商業施設の投資コストを合理化するには、駐車場計画と客用動線の仕様、防火区画、バックヤード機能の配列などを精査することが有効となる
2. イニシャルコストとは、事前調査費、企画・設計デザイン費、内装工事費、開店イベント費などをいう
3. ランニングコストとは、家賃・テナント料以外の人件費、水光熱費、販売促進費、施設設備の減価償却費などをいう
4. コスト計画では、売上げ計画と利益想定にもとづく、初期投資額を設定するとともに、運営管理費項目の優先順位にも配慮することが必要である

答. 3

【No.15】 設計図書をつくり方に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 設計製図の内容と手順には、基本計画図、基本設計図、実施設計図、竣工図で進められ、仕様説明の書類は含まれない
2. 配置図、平面図などは原則として、北を上で作図する
3. 透視図は、実在しない建築やインテリアの空間イメージを、平面上で表現し伝達するための描法である
4. CADは、コンピュータ支援設計と訳され、コンピュータを用い設計または支援ツールのことである

答. 1

---